

**2023（令和5）年度第3回（通算第63回）理事会（通常）議事録**  
**一般財団法人国際法学会**

1. 日 時：2023年9月4日（月） 18時00分～19時43分

2. 場 所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター306/307会議室  
および Zoom によるオンラインを併用したハイブリッド会議

3. 出席理事：

（代表理事）植木俊哉、（理事）阿部達也、石田淳、大平真嗣、小畑郁、玉田大、塚原（西村）弓、都留康子、寺谷広司、西谷祐子、濱本正太郎、水島朋則、森肇志、森田章夫、山田哲也、横溝大

以上16名、対面参加

（理事）青木節子、萬歳寛之 以上2名、Zoomにより参加

出席監事：

真山全 以上1名、対面参加

佐野寛 以上1名、Zoomにより参加

陪席：佐俣紀仁、二杉健斗（事務補佐） 以上2名、対面参加

岡田陽平 以上1名、Zoomにより参加

4. 議事の内容

1) 報告事項

- 1 委員の交代に関する件
- 2 国際法学会世界大会に関する件
- 3 エキスパートコメントに関する件
- 4 アジアカップ2023の開催に関する件
- 5 東京国際法セミナーに関する件
- 6 ニュースレター発行に関する件
- 7 2023年度研究大会、傍聴者、出版社出展に関する件
- 8 その他

2) 議決事項

- 第1号議案 名誉会員の推薦に関する件
- 第2号議案 名誉会員の推薦基準および待遇に関する内規改正に関する件
- 第3号議案 2023年度補正予算に関する件
- 第4号議案 2023年度（第126次）研究大会開催に関する件
- 第5号議案 国際法外交雑誌第122・123巻の編集状況に関する件
- 第6号議案 新入会員の承認に関する件
- 第7号議案 会員総会における報告事項と報告者に関する件
- 第8号議案 アメリカ国際法学会からの情報提供に関する件
- 第9号議案 その他

5. 議事要旨

開催に先立ち、定款41条1項および2項に基づき定足数が確認され、議決に加わることができない議長を除く17名の理事が参加していることから、議決に加わることのできる理

事 18 名の過半数（10 名）が出席していることが確認された。定款 29 条 3 項に基づき代表理事が議長となった。議長は、本日の理事会は、Zoom を併用して行う旨を述べ、出席者が一同に会するのと同等に適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認の後、理事会の開会を宣した。続けて、前回 2023（令和 5）年度第 2 回（通算第 62 回）理事会（臨時）の議事録の確認が行われた。

## 1) 報告事項

### 1 委員の交代に関する件

植木代表理事より、外務省の人事異動に伴って、ex officio に就任していただいている本学会の委員を以下の通り交代したことが報告された。

- ・雑誌編集委員会（条約課長） 菅原清行氏から馬場隆治氏へ
- ・エキスパートコメント委員会（国際法課首席事務官） 秋山卓也氏から木花和仁氏へ

### 2 国際法学会世界大会に関する件

寺谷国際交流委員会委員長より、国際法学会世界大会に関連して、次の 2 点が報告された。すなわち、第一に、アルゼンチンにて 2025 年に開催予定の国際法世界大会について、第二に、2027 年以降の日本での開催可能性に関する国際交流委員会での検討状況について、である。第二の点について、国際交流委員会としては、現時点で 2027 年以降の日本国内での開催可能性について判断をすることが困難であり、次期以降の理事会および関連する委員会に最終的な判断を委ねざるを得ないと考えていることが説明された。

出席理事より、国際交流委員会が示した方針に賛意が示された。

### 3 エキスパートコメントに関する件

阿部エキスパートコメント委員会委員長より、2022 年 8 月以降、今日までに 5 件のエキスパートコメント記事が掲載されたことが報告された。

出席理事より、国際法学会ホームページに掲載された記事それぞれの閲覧数・ダウンロード数を把握して、今後のエキスパートコメント委員会の活動に活用することの可能性について質問がなされた。阿部エキスパートコメント委員会委員長より、それらのデータの把握が技術的に可能であれば、委員会内で活用方法を検討したい旨の発言があった。

植木代表理事より、ホームページ委員会等の関係委員会で利用状況の調査について技術的な実現可能性等を検討の上、もし必要であれば理事会に報告されたい旨の発言がなされた。

### 4 アジアカップ 2023 の開催に関する件

水島若手研究者育成委員会委員長より、2023 年アジアカップ（予選会場：AP 虎ノ門、決勝会場：国連大学）が 2023 年 8 月 22 日（水）および 23 日（木）に成功裏に開催されたことが報告された。18 カ国 55 チームから参加登録、うち、14 カ国 15 チームが弁論ラウンドに進出し、結果としてバングラデシュ・チームが優勝、カンボジア・チームが準優勝を果たした。

植木代表理事より、若手研究者育成委員会、会計部、および裁判官等を務めた会員の協力を謝辞が述べられた。

### 5 東京国際法セミナー開催に関する件

大平理事および森田アウトリーチ委員会委員長より、資料に基づき、東京国際法セミナーが外務省主催、国際法学会共催の下で、成功裏に終了したとの報告がなされた。

出席理事より、セミナーのスケジュールや参加者との交流機会等に関する問題提起がなされ、大平理事および森田アウトリーチ委員会委員長より、来年度以降の開催に向けた検討課題としたい旨の回答がなされた。

## 6 ニュースレター発行に関する件

都留会員委員会委員長より、2023年10月発行予定のニュースレターに関する作業を進めていることの報告がなされ、各委員長宛に、掲載記事・情報の提供について呼びかけがなされた。

## 7 2023年度研究大会、傍聴者、出版社出展に関する件

植木代表理事より、今年度研究大会の傍聴者人数が20名、出版社の出店は8社であったことが報告された。

## 8 その他

### (1) 2024年度研究大会に関する件

濱本研究会企画委員会委員長より、2024年度の研究大会の企画に関連して Oda Lecture Series および研究テーマの基本方針案が説明され、9月中旬に委員会としての最終方針を決定予定であるとの報告がなされた。

## 2) 議決事項

### 第1号議案 評議員および理事の選任についての意見聴取の実施に関する件

植木代表理事より、定款51条に定める「名誉会員」について、「名誉会員の推薦基準および待遇に関する内規」1項に基づき5名の「名誉会員」を推薦する原案が提示された。また、今回の推薦は、昨年度、一昨年度に同項の基準を満たしていた者も対象としている旨の説明がなされた。

審議の結果、定款41条1項および2項に基づき、議決に加わることのできない議長を除く、すべての理事(17名)の賛成により以下の通り議決された。

#### 【議決事項】

---

原案通り、最上敏樹、野村美明、佐藤やよひ、吉川元、植田隆子の5氏を名誉会員に推薦する。会員区分の移行は2024年度開始時点とする。

---

### 第2号議案 名誉会員の推薦基準および待遇に関する内規改正に関する件

植木代表理事より、資料に基づき、「名誉会員の推薦基準および待遇に関する内規」の改正案が提案された。

改正案の趣旨は次の通りである。現状の内規では、「理事」または「監事」を務めた会員のみが名誉会員の推薦資格を満たす。しかし、2012年の新法人移行後、理事を経ることなく「評議員」となった会員もある。今回の改正案によって、現行内規によってカバーされていない評議員も名誉会員として推薦できることを明記する。

出席理事より、現在、評議員(および監事)は4年任期であり、任期途中で名誉会員資格が生じる可能性が高いため、名誉会員への推薦は任期終了後とする等の運用上の工夫が必要である旨の指摘がなされた。植木代表理事より、内規の望ましい運用については執行部で検討したいという回答があった。

以上の議事を踏まえ、定款41条1項および2項に基づき、議決に加わることのできない議長を除く、すべての理事(17名)の賛成により以下の通り議決された。

#### 【議決事項】

---

原案通り、「名誉会員の推薦基準および待遇に関する内規」の1項を改正し、以下の通りとする。

「1. 理事もしくは監事を勤めた会員、または新法人移行後に評議員を勤めた会員が学

会役員の定年に達した場合には、代表理事の提案に基づいて、理事会がこれを名誉会員に推薦することができる。ただし、職務上の理事を勤めた会員は除く。」

---

### 第3号議案 2023年度補正予算の件

西村会計部長より、資料に基づき、補正予算案の説明がなされた。本補正予算案には、国際法外交雑誌オンライン化の事務作業委託経費、大会運営委員会および事務局による研究大会下見費用等にかかる修正を含む。

出席理事より、会計部の事務作業増加を考慮し、会計部の体制強化について検討をする必要がある旨の発言がなされた。代表理事から、現会計部長および次期以降の会計部長の意向を踏まえながら、会計部人員増加等の対応の要否を検討したいという回答がなされた。

以上の議事を経て、定款41条1項および2項に基づき、議決に加わることでできない議長を除く、すべての理事（17名）の賛成により以下の通り議決された。

#### 【議決事項】

2023年度補正予算案を原案の通り承認する。

---

### 第4号議案 2023年度（第126次）研究大会開催に関する件

萬歳研究大会運営委員会委員長より、2023年度研究大会の事前参加登録者数（会員）262名、傍聴者登録数（非会員）18名であったことが報告され、これら参加登録状況を踏まえた会場の部屋割り最終案が提示された。

植木代表理事より、2024年度研究大会の準備状況に関する質問があり、萬歳研究大会運営委員長から、福岡市内のコンベンションホールを会場として開催に向けた準備を進めている旨の回答がなされた。

定款41条1項および2項に基づき、議決に加わることでできない議長を除く、すべての理事（17名）の賛成により以下の通り議決された。

#### 【議決事項】

2023年度研究大会を、研究大会運営委員会の原案通り開催する。2024年度研究大会は福岡での開催を前提として各種準備を進める。

---

### 第5号議案 国際法外交雑誌第122・123巻の編集状況に関する件

森雑誌編集委員会委員長より、資料に基づいて、国際法外交雑誌第122・123巻の編集状況について説明があり、今後の編集方針についても提案がなされた。

定款41条1項および2項に基づき、議決に加わることでできない議長を除く、すべての理事（17名）の賛成により以下の通り議決された。

#### 【議決事項】

国際法外交雑誌第122巻・123巻の編集方針を原案通り承認する。

---

### 第6号議案 新入会員の承認に関する件

植木代表理事より、資料に基づき、8件の入会申請（一般会員1件、学生会員5件、特別会員2件）について提案がなされた。

審議の結果、定款41条1項および2項に基づき、議決に加わることでできない議長を除く、すべての理事（17名）の賛成により以下の通り議決された。

#### 【議決事項】

入会申請者＝8名（一般会員：1名、学生会員5名、特別会員2名）

---

退会申請者=1名（2023年7月17日特別会員終了）

逝去会員=2名

種別変更会員=2名

入会申請者理事会承認後会員数

869名（一般会員771名、学生51名、名誉39名、特別4名、終身1名、維持会員3名）

---

**第7号議案 会員総会における報告事項と報告者に関する件**

植木代表理事より、2023年度会員総会における報告事項と報告者について、慣例に従って、代表理事、事務局長、会計部長、研究企画委員会委員長、雑誌編集委員会委員長が登壇して、各委員会所掌業務について報告を行うことが提案された。

定款41条1項および2項に基づき、議決に加わることのできない議長を除く、すべての理事（17名）の賛成により以下の通り議決された。

**【議決事項】**

会員総会における報告事項と報告者に関する原案を承認する。

---

**第8号議案 アメリカ国際法学会からの情報提供に関する件**

植木代表理事より、資料に基づき、アメリカ国際法学会より“Standing Tall for the Rule of Law: The American Society of International Law in Lviv, Ukraine”に関する情報提供がなされたことが報告され、学会としての対応のあり方について参加理事による意見交換が行われた。

**【議決事項】**

なし

---

以上